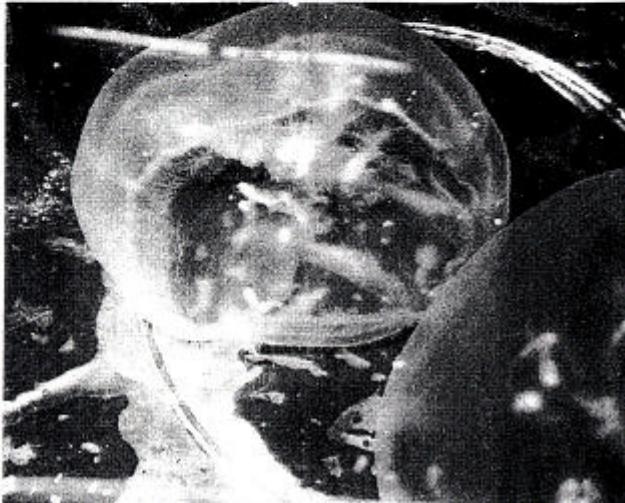


沿岸の護岸工事で大量発生 漁業者悩ますミズクラゲ

京大水産実験所の益田さんらが共同研究



マダイの稚魚を捕食するミズクラゲ
(京大水産実験所の益田さん提供)

学水産実験所の益田玲彌
助手(36)らが昨年から
共同研究を行つてゐる。
その実験結果を公開シン
ポジウムで報告した。
ミズクラゲは日本各地
の沿岸で見られ、ほぼ一
年を通して出現する。舞
鶴湾では四月～九月が最
も多い。全国的に増えて
いるが、特に瀬戸内海で
多いとの報告がある。生
後数日間のミズクラゲは
着底する護岸が必要で、

源が減少している魚とズクラゲの関連も考えられるとして、益田さんと京大農学研究科四回生の中山慎之助さんらが共同研究に取り組むことにした。

自然の状態で残すことが
大切」と話していた。今後もミズクラゲの固体放
査などを続ける。

減少している魚類との関係も

近年日本の沿岸海域の護岸工事でミズクラゲが増え、定置網などに入つて漁業者らを悩ませている。また、このミズクラゲは一部の魚類を捕食し

舞鶴市民新聞

砂浜や海草の海辺は生息環境に適していない。各地でコンクリート護岸の増加が、クラゲの大量発生の原因とされる。しかし、その固体数や生態はほとんど分かっていない。

食行動を実験した。一個の水槽に三匹のミズクラゲを入れたところ、生後十八日以前の全長七・二未満の稚魚は簡単に捕食された。一匹のミズクラゲは弱っている稚魚なら二